

JACET Kansai Newsletter

No. 72 July 31, 2015

一般社団法人大学英語教育学会関西支部 (JACET Kansai Chapter)

支部長: 小栗 裕子 (滋賀県立大学) (Chapter President: Yuko Oguri, The University of Shiga Prefecture)

事務局: 〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1番地 京都ノートルダム女子大学 東郷多津研究室内

(Chapter Office: c/o Tazu Togo, Kyoto Notre Dame University)

E-mail: jacetkansaichapter@gmail.com URL: <http://www.jacet-kansai.org/>

JACET KANSAI JOURNAL 編集委員会よりごあいさつ

新田香織 (副支部長)

平素より JACET 及び JACET 関西の活動へのご理解、ご協力、そしてご支援を賜り、心より御礼申し上げます。今年度より JACET 関西の副支部長という大役を仰せつかりました新田香織と申します。研究・教育面ともにまったくの力不足で、本人が一番場違いであることを実感しておりますが、お引き受けした以上は、微力ながら小栗支部長を精一杯支えていく所存でございます。よろしくご指導のほどお願ひいたします。

副支部長の一番の仕事は支部紀要である JACET KANSAI JOURNAL の編集・刊行でございます。過去4年間編集委員として小栗前編集委員長と共に活動してまいりました。「できるだけ多くの方の論文を掲載したい」と「掲載論文のレベルを高いものに保ちたい」という思いの狭間で、どちらかというと苦しく悩ましい議論を重ねてまいりました。後者に大きく重心を移せば、発刊できない事態に及ぶ危機もございました。

過去2年ほどは、より高い客観性を目指して論文内容の数値化と、論文のレベルをできるだけひき上げるための詳しいコメントを査読の先生方にお願いしております。お二人の査読者のおひとりでも基準に満たない点数を出された場合は、掲載見送りとなります。基準点をクリアした論文はコメントに従って修正をしていただき、その後再び査読を経て、最終的な掲載決定となります。たとえ掲載見送りとなつたとしても、温かく精密なコメントは今後の論文執筆に大いに役立つと信じております。

JACET の新会長である寺内一先生が、就任のごあいさつの中で以下のように述べておられます。「JACET には『紀要』、『Selected Papers』と各支部の『支部紀要』があります。『紀要』と『Selected Papers』を JACET International として、世界の研究者に認知され、読まれ、引用されるように準備していきます。具体的には、掲載論文の水準を国際標準に格上げできるようにと考えています。また、『支部紀要』を JACET Domestic として、JACET International との棲み分けを行い、若手を含めた多くの会員がチャレンジできる

機会を増やしてまいります。」(JACET News, July 2015)

JACET 関西の編集委員会のアクションプランとしては、第一に、「若手を始め、できるだけ多くの会員のみなさまに応募していただく」ための環境づくりへの努力をいたします。投稿規定やテンプレートなどより、わかりやすく改善していきます。第二に、掲載の有無にかかわらず「応募してよかったです」と思っていただける支援体制をさらに充実させていきたいと考えております。

充実した支援体制を目指して、手始めに JACET KANSAI JOURNAL への応募締切日の変更をさせていただきます。2015年9月30日(必着)が締め切りとなりますので、よろしくお願ひいたします。査読の先生方に十分な時間を取っていただくための変更となります。ご経験豊かな査読の先生方に、「どこが優れているのか」、「何が足りないのか」をお示しいただいて、応募された会員の方々の今後の研究活動に生かしていただけたらと期待しております。

JACET Domestic としての JACET KANSAI JOURNAL は、国際水準に達している論文はもちろんですが、まだ経験の浅い会員の方々の論文も歓迎いたします。国際標準への橋渡し的な役割を担い、僭越ですが、若手を中心に会員の方々のレベルアップのお役に立てたらと願っております。寺内新会長が言われております「協働の場」として、JACET 関西の活性化につながりますよう、査読の先生方にはさらにご理解とご協力をお願いいたします。

近々、査読者の体制を整えるべく、オンラインアンケートを実施いたします。この機会に新しい査読メンバーもご推薦いただければと思っております。

最後になりましたが、JACET 関西の会員のみなさま、ぜひ投稿へのチャレンジをお願いいたします。みなさまのご研究や授業実践などを是非共有させてください。「学生への教育を充実させるための研究」を推進するために協働していただきますよう、心よりお願い申し上げます。9月30日必着です。

■支部研究会のご案内■

JACET 関西支部では 10 の研究会が活発に活動しています。以下に、本年度の各研究会名、代表・副代表者名、代表・副代表者連絡先を紹介します。各研究会では原則として、常時、新入会員の申込みを受け付けておりますので、興味・関心のある研究会がありましたら、お気軽に各研究会の代表者までご連絡ください。また、最新の活動情報は JACET 関西支部 HP にてご確認ください。

JACET Kansai Chapter has the following ten Special Interest Groups (SIGs) that meet regularly. According to the JACET policy, they are run as two-year projects, being renewed every two years with new leaders. Please refer to <http://www.jacet-kansai.org/group.html> for more information, or contact the chair of the SIG in which you are interested.

◆文学教育研究会 (Literature in Language Education)

代表：幸重美津子（京都外国語大学）
yuki[AT]balloon.ne.jp

副代表：時岡ゆかり（大阪産業大学）
ytokioka[AT]las.osaka-sandai.ac.jp

◆学習英文法研究会 (Pedagogical English Grammar)

代表：吉田幸治（近畿大学）
k_yoshida[AT]bus.kindai.ac.jp

副代表：山本 修（大阪市立大学）
yamamoto[AT]mae.osaka-cu.ac.jp

◆ESP 研究会 (English for Specific Purposes)

代表：上村バッケス尚美（近畿大学）
backes[AT]waka.kindai.ac.jp

副代表：服部圭子（近畿大学）
khattori[AT]waka.kindai.ac.jp

副代表：浅井静代（立命館大学）
sasai[AT]fc.ritsumei.ac.jp

◆「海外の外国語教育」研究会 (Foreign Language Education Abroad)

代表：相川真佐夫（京都外国語大学）
m_aikawa[AT]kufs.ac.jp

副代表：米崎 里（福山大学）
michi[AT]fuedu.fukuyama-u.ac.jp

◆教材開発研究会 (Materials Development)

代表：尾鍋智子（大阪大学）
onabe[AT]msc.osaka-u.ac.jp

副代表：赤尾美和（近畿大学 非）
miwa_0722[AT]yahoo.co.jp

◆科学英語教育研究会(English for Japanese Scientists)

代表：尾鍋智子（大阪大学）
onabe[AT]msc.osaka-u.ac.jp
副代表：幸重美津子（京都外国語大学）
yuki[AT]balloon.ne.jp

◆授業学(関西)研究会 (Developmental Education)

代表：村上裕美（関西外国语大学短期大学部）

hiromim[AT]kansaigaidai.ac.jp

副代表：東郷多津（京都ノートルダム女子大学）

togo[AT]notredame.ac.jp

◆リスニング研究会 (Listening)

代表：松村優子（近畿大学（非））

yuko-ma[AT]kcc.zaq.ne.jp

副代表：原田洋子（関西国際大学（非））

brisk4050[AT]ta2.so-net.ne.jp

◆リーディング研究会 (Reading)

代表：伊藤佳世子（京都大学）

cybel.kayoko[AT]orion.ocn.ne.jp

副代表：表谷純子（関西学院大学）

j.omotedani[AT]gmail.com

◆ライティング指導研究会 (Writing)

代表：嶋林昭治（龍谷大学）

shima777[AT]biz.ryukoku.ac.jp

副代表：山西博之（関西大学）

hiyamani[AT]kansai-u.ac.jp

■2015 年度春季大会の報告■

2015 年度 JACET 関西支部春季大会が、2015 年 6 月 27 日（土）に大阪教育大学 天王寺キャンパスにて開催されました。午前中は高瀬敦子先生によるワークショップが行われ、参加者は大学生のつもりになって多読の体験授業を受け、その実践方法や効果についてのお話を聞き入りました。午後からは 9 件の研究発表と 4 件の実践報告に加え、2 件のシンポジウムが行われました。「海外研修プログラムを活用したグローバル人材育成の試み」では、大阪教育大学が実施しているスウェーデン・フィンランドでの海外教育実習、武庫川女子大学が実施しているシアトルでのキャリア教育や企業研修について、それぞれ中田葉月先生、辻和成先生から紹介がありました。リーディング研究最前線シンポジウムでは、中野陽子先生・川崎眞理子先生・野呂忠司先生から、リーディングの仕組みに関する研究とその実践への応用に関連して、視線計測による英語の関係節付加曖昧構文の理解過程・英語の識字能力や音読速度・4 技能を伸ばすための多読授業実践について報告がありました。参加者総数は 118 名となり、盛況な大会となりました。

The JACET Kansai Chapter Spring Conference was held on June 27 at Osaka Kyoiku University, Tennoji Campus with 118 participants attending sessions presenting 9 research reports and 4 practical reports. A workshop was held by TAKASE, Atsuko (Part-time Instructor, Kansai University etc.). Two symposia were presented by NAKATA, Hazuki (Osaka Kyoiku University) and TSUJI, Kazushige (Mukogawa

Women's University) under the title "Fostering Global Citizens through Study Abroad Programs". The final event of the day was a symposium delivered by KAWASAKI, Mariko (Takasaki City University of Economics), NORO, Tadashi (Aichi Gakuin University) and NAKANO, Yoko (Kwansei Gakuin University) under the title "State of the Art in L2 English Reading Studies".

＜企画ワークショップ＞「教室で如何に効果的な多読指導を行うか」

講師：高瀬 敦子先生（関西大学他非常勤）

多読指導の第一人者である高瀬敦子先生によるワークショップが開催された。まず、前半は、英語のインストラクションで始まり、フロアの参加者全員が生徒になるという参加型の多読指導が実践された。タイマーで時間を測りながら、多読用図書を数冊手にした参加者に、集中力と語彙力の強化につながるアクティビティが行われた。ワークショップの後半では、効果的な多読指導法についてお話をいただいた。言語の習得に大切な要素とされる流暢さ(fluency)を養うためには多読が効果的であり、YL(Yomiyasusa Level) 1以下の易しいレベルから少なくとも 100 冊の図書を読む、日本語に訳さず英語で理解する、読書記録をつける、などの具体的な多読方法をご教示いただいた。長年にわたり多読指導を行ってこられた高瀬先生のご経験にもとづくお話をはじめ、多読指導への熱意に感銘を受けるとともに、多読を通して英語力を向上させるための多くの助言をいただく実り多いワークショップであった。最後に、詳細な多読用資料と数多くの多読教材をご提供くださった高瀬先生に感謝申し上げたい。

報告者：金志佳代子（兵庫県立大学）

＜シンポジウム 1＞「海外研修プログラムを活用したグローバル人材育成の試み」

講師：中田 葉月先生（大阪教育大学）

辻 和成先生（武庫川女子大学）

当シンポジウムは当初、海外語学研修にプラスアルファのプログラムを提供している大学にその特色ある内容や理念をご紹介頂こうという企画であったが、ご登壇の 2 校ではいわゆる“海外研修”的イメージの殻を破る、優れて密度の濃いプログラムが展開されていた。まず中田葉月先生からは、大阪教育大学の海外教育実習について紹介頂いた。2011 年度から開始した海外の小学校での実習の目的はグローバルな視野の育成・教える英語力の向上・教科の授業力の増進の 3 点；協力小学校との交渉等は大学教員が行うが 2 週間にわたる渡航計画は学生たちが自主的に立案；授業

後に担任教諭から即座に指導を受け改善するプロセスを経て渡航中に授業力及び英語力の向上が自覚されたことなど、プログラム概要の客観的な紹介と同時に、現地での授業の様子のビデオクリップも挟みながら参加した当事者としての臨場感も報告頂けた。次に辻和成先生からは、武庫川女子大学及び短期大学部におけるアメリカ分校と連携した人材育成の取組を紹介頂いた。平成 23 (2011) 年度に立ち上げられた当プログラムでは日米の研修先としてプログラムの趣旨に賛同した錚々たる企業が名を連ねていた。また、実社会のニーズ把握に基づき学生の卒業時の最終的な姿として、キャリア意識や知識の向上・異文化理解とその適応や活用力・自立心と協調性の育成を目標に設定しており、それに向かい着実に力をつけるために学生が主体的に対象に関わるための手立て・工夫が綿密に組み込まれていた。ご参会の先生方も大いに興味を持たれ、研修前後での英語力の伸長、大学教員による援助などについて活発な質問を受けた。いずれの大学でも教員は受け入れ先の設定のために信頼関係作りに惜しみなく力を注いでいることが垣間見えた。プログラム開発者の大胆な企画力、確かな眼力、強靭な実行力を否応なく感じたが、2 校に共通して、英語力向上に乗じた付加価値を実質的に目に見える形にするには、教員のガイドのもと学生自身に充分な事前準備をさせ、現場でその仮説を試行錯誤する経験を持たせ、再び今後の活動を再検討させるというように、仮説と検証の間を往還するプロセスをプログラムに組み込むことが成功の秘訣であるように感じた。

報告者：生馬裕子（大阪教育大学）

＜シンポジウム 2＞「リーディング研究最前線」

講師：川崎 真理子先生（高崎経済大学他非常勤）

野呂 忠司先生（愛知学院大学）

中野 陽子先生（関西学院大学）

まず、中野陽子先生のご発表から。英語母語話者と日本人英語学習者に対して、先行文脈の情報が関係節の附加位置の曖昧性解消にどのようなタイミングで影響するのか調べるために行った、文完成課題と視線計測実験の結果が報告された。いずれの実験でも学習者に対する文脈の影響が大きいことが報告され、このことから学習者に十分な背景知識を与えることが学習対象言語の読みにより大きな意味を持つのでは、との示唆でまとめられた。続いて、川崎真理子先生のご発表。授業内指導の前後で疑似単語の音読がどう変化したかを誤読率・音読潜時・音読時間といった観点から分析した。教育への示唆として、学習者にルールがあることに気づかせることで多読につなげができるのではないかと結ばれた。最後が野呂忠司先生のご発表。ご本人らが実施した実験を通して多読の有用性を示し、あわせて 4 技能のスキル向上のために多

読と組み合わせて行っている授業内外の様々な活動が報告された。最後はタイトルを踏まえて「多読をもとに 4 技能を高める言語活動を行い英語の授業を活性化しませんか」という提案で結ばれた。

報告者：山本勝巳（流通科学大学）

■2015 年度第 1 回支部講演会の報告■

JACET 関西支部 2015 年度第 1 回講演会が、2015 年 7 月 11 日（土）に神戸大学 鶴甲第 1 キャンパスで開催されました。

講師：ジェイ クラパーキ先生（京都外国語大学）
アンガス マグレガー先生（京都外大西高等学校）
塩見 佳代子先生（立命館大学）

演題：「TEDxKyoto で繋ぐコミュニティと TED トークの革新的なアイデアを活用した英語授業」
“Bringing Innovation to the Community and Classroom through TED Talks and TEDxKyoto”

講演には 44 名の参加があり、TED スピーカーへのコーチングやイベント運営、TED Talks のビデオを使った教材開発や EGP・ESP の授業実践、さらにプロジェクト型学習事例についてのご報告を、皆様熱心にお聞きになっておりました。質疑応答・討論では短い時間ながらも、講師の先生方と参会者との活発な議論が展開されました。多くの皆様のご参加、誠にありがとうございました。

The first Lecture Meeting of the 2015 academic year was held on July 11 at Kobe University, Tsurukabuto Campus, with 44 participants. The speakers shared with the audience about TED, TEDxKyoto and offered some ideas for using TED talks as a learning platform in the English classroom, including project-based learning. After the stimulating presentations, there was an active discussion among the speakers and the participants.

■2015 年 JACET 関西支部第 2 回・第 3 回 支部講演会の案内■

JACET 関西支部では、下記の通り、年度内にあと 2 回の講演会を予定しております。

第 2 回：2015 年 10 月 17 日（土）

ライティング指導研究会企画特別シンポジウム
場所：同志社大学烏丸キャンパス
演題：指導者に使い勝手の良いライティング指導実践ハンドブック作成の取り組み
講師：大年順子（岡山大学）、
山西博之（関西大学）
川西 慧（京都大学）
山下美朋（関西大学）
嶋林昭治（龍谷大学）

概要：ネット環境の広がりによるグローバル化にともない、英語教育における産出スキルとしてのライティング力の重要性は高まりつつある。にもかかわらず、大学レベルでのライティング指導に十分注力されているとはいいがたい。その原因の一つとして、大学で教鞭をとる指導者自身がライティング指導の具体的な方法、目標設定、評価法などに関わる十分な情報を得られていないことが考えられる。そこで本研究会では、大学でライティングを指導する教員を対象にライティング指導の理論的枠組みから、日々の授業に即戦力として使用可能な教材とその指導方法、評価方法までを網羅した『ライティング指導実践ハンドブック』の作成に取り組んできた。今回の講演では、その概要および成果を紹介するとともに、参加者の皆様と今後のライティング指導の在り方について意見を交わす交流の場としたい。

第 3 回：2016 年 3 月 5 日（土）

リスニング研究会企画特別シンポジウム

場所：関西学院大学大阪梅田キャンパス（予定）

※参加費：JACET 会員は無料。非会員は 500 円。
事前申し込みの必要はございません。

※要旨などの詳細は、開催が近づきましたら、支部 HP に掲載致しますのでご覧ください。

JACET Kansai Chapter will hold two other Lecture Meetings in this academic year as follows:

-The 2nd Lecture Meeting by the special interest group for Writing on October 17, 2015 at the Karasuma Campus of Doshisha University

Title : Developing a User-friendly Teaching Handbook to Teach Writing at the Tertiary Level

Speakers : Junko Otoshi (Okayama University),

Hiroyuki Yamanishi (Kansai University),

Kei Kawanishi (Kyoto University),

Miho Yamashita (Kansai University),

Shouji Shimabayashi (Ryukoku University)

Abstract:

This presentation is a kind of introduction to our new research project of writing a handbook on teaching writing, which started in 2011. The project was launched as a response to the rising necessity of a handbook that can be readily and extensively used by English instructors at the tertiary level. The handbook is a kind of conglomeration of ideas on how to teach writing, give appropriate feedback to learners, and appropriately assess learners' writing.

It will be our great pleasure to share our thoughts and ideas on teaching writing, such as how to teach

writing, give feedback, and assess learners' writing, with the participants in the presentation session.

-The 3rd Lecture Meeting by the special interest group for Listening on March 5, 2016, at the Osaka Umeda Campus of Kwansei Gakuin University,

Refer to details at the JACET Kansai Chapter home page (<http://www.jacet-kansai.org>).

Fee: JACET member, free; nonmember, ¥500. No need to pre-register.

■JACET 第 54 回国際大会のお知らせ■

2015 年 8 月 29 日（土）から 31 日（月）まで鹿児島大学 郡元キャンパスにて JACET 第 54 回国際大会が開催されます。皆様のご参加をお待ちしております。

大会テーマ：グローバル時代の異文化間コミュニケーション能力と英語教育

開催日程：8 月 29 日（土）～8 月 31 日（月）

開催場所：鹿児島大学 郡元キャンパス

要旨：大学英語教育学会第 54 回（2015 年度）国際大会の目的は、現代のグローバル化された世界における異文化間コミュニケーション能力とそれを支える英語教育の有効な役割と社会的使命に光を当てることである。

海を越え、国境を越えてグローバル化された社会の拡大に伴い、英語は今日の世界においてより必要不可欠な世界共通語となり、それに伴い、よりバランスのとれた英語教育を目指した熱意ある教育動向や教育改革を誘発していると言える。まさしくそこに求められているものは、世界を取り巻く多様な学際性と様々な社会環境を考察することが求められているのである。この新しい方向に鑑みて、政治、経済に導かれた地政学的な環境が、現代のグローバル化促進の中心的役割を果たしていることを我々は認識する必要がある。この現実を認識する一方で、我々は異文化理解の中心的因素を理解する大切さを決して過小評価してはならないのである。

歴史が示すように、異文化の格差を理解するためには、人種、宗教、イデオロギーの諸問題から、食物、衣服、音楽に関わる諸問題まで、広範な社会文化、社会言語学レベルに注目すべきことが求められている。もう一つの関心領域は、個々の民族や地方において独自に育まれ大切にされてきた様々な伝達様式に存在している。このことは、より総合的、幅広い観点から言語教育や言語学習を見ていく必要を意味している。

多面的視点から英語教授法と英語運用能力を考察していくことは、世界の主たる潮流となった。従つ

て、上述のようなより確実で焦点化された方法で異文化理解の問題を再考して文化間の格差を解決することは極めて生産的なことであろう。これは、物質的豊かさではなく、世界の人々の共存共栄のためである。このゴールは、永続的な人類の絆と深い異文化理解の確立により、具現化する必要がある。このことを念頭に置いて、バランスのとれた方法で、つまり拡大し続けるグローバル化と何世紀にも及ぶ異文化遺産の継承に目を向けながら、英語教育と異文化間コミュニケーション能力の獲得が実働化されねばならない。我々は、そのような新しい時代を迎えているのである。

The JACET 54th International Convention

-Theme: Intercultural Communicative Competence and English Language Education in a Globalized World

- Date: August 29 (Sat) – August 31 (Mon), 2015

- Venue: Kagoshima University, Korimoto Campus

- Abstract: The objective of the JACET 54th (2015) International Convention lies in highlighting the potent roles and social missions of cross-cultural communicative competence and supportive English language education in a contemporary globalized world.

With the expansion of globalized societies across oceans and boundaries, English has become a more indispensable lingua franca in today's world, thereby triggering more enthusiastic educational trends and pedagogical reforms aimed at how to teach the English language in a well-balanced manner. Indeed, it is important to consider multiple disciplines and various social circumstances around the world. Noting this new direction, we need to acknowledge that politics- and economy-led geopolitical circumstances are playing a pivotal role in promoting contemporary globalization. While recognizing this reality, we should never underestimate the importance of understanding the core essence of cross-cultural communication.

As history witnesses, understanding cultural gaps requires us to look into far-reaching sociocultural and sociolinguistic levels, ranging from issues on race, religion, and ideology to the ones related to food, clothing, and music. Another area of interest lies in various communication styles that have been uniquely fostered and cherished in individual ethnic groups and local regions. This implies the necessity of our looking into language education and language learning from a more holistic and wider viewpoint.

Considering English teaching methods and language capability from multi-faceted standpoints has

become a major trend around the world. Hence, it would be highly productive to reconsider the issue of how to understand and resolve cultural gaps in a more authentic and focused way as noted above. This is not because of material affluence, but because of coexistence and mutual prosperity among global peoples. This goal must be exemplified by establishing long-lasting human bonds and deeper levels of cross-cultural understanding. With this notion in mind, we are greeting a new era, where English language education and intercultural communicative competence should be implemented and then developed in a well-balanced manner: focusing on expanding global trends, and sustaining centuries-long cross-cultural heritages.

Visit the 53rd International Convention URL
<http://www.jacet.org/2015convention/index.html>

■2015年度関西支部秋季大会開催のお知らせ■

2015年度の関西支部秋季大会がJACET英語教育セミナーとともに、来る11月28日（土）に神戸学院大学ポートアイランドキャンパスで開催されます。秋季大会では「動機づけ」研究に係るシンポジウムとワークショップを企画しています。また、英語教育セミナーでは「中高大グローバル教育最前線：SGH/SGU校の取り組み」をテーマにしたシンポジウムと、出版社による展示およびプレゼンテーションが予定されています。大会（9時40分～14時55分）終了後、そのままセミナー（15時～17時30分）へと、シームレスに移動・参加していただけるようになっています。晩秋の一日、研究と教育のヒントがぎゅっと詰まったこの催しにみなさんの参加をお待ちしています。

8月1日（土）よりJACET関西支部ホームページにて、秋季大会の発表募集を開始します（<http://www.jacet-kansai.org>）。発表募集の締め切りは9月30日（水）です。

The 2015 Fall Conference of the JACET Kansai Chapter and the English Education Seminar will be jointly held on Saturday, November 28 at Port Island Campus of Kobe Gakuin University. The feature topics are “motivation” for the conference and “Global Education” for the seminar. Details will be announced in our website.

We welcome presentation proposals for the conference from all members, including our student members. A web-based proposal form will be available at the JACET Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org>) from August 1. The

submission deadline is September 30 (Wed). Come and share your work with the JACET community!

募集要領

この大会での発表をご希望の方は、次の要領で関西支部ホームページよりご応募ください。教員だけでなく、大学院生の会員による応募も歓迎いたします。会員の皆様の積極的なご応募をお待ちしております。

1. 発表は、英語教育および関連分野に関する内容で、未発表のものに限ります。
2. 発表者（共同発表者を含む）は、JACET会員に限ります（申込時点では会員資格が必要です）。
3. 発表言語は、日本語または英語です。
4. 発表種別・時間は、以下の通りです。

ワークショップ：発表者は1名～数名。参加者によるタスク活動を含む。90分。

コロキアム：発表者は数名。特定のテーマについての議論を行う。90分。

研究発表：理論的、実証的な研究成果に関する発表を行う。30分（発表20分+質疑10分）。

実践報告：授業実践やカリキュラム改革に関する報告を行う。30分（発表20分+質疑10分）。

5. 応募は8月1日（土）よりWEBフォームから可能となります。随時、JACET関西支部ホームページ上（<http://www.jacet-kansai.org>）に関連情報を掲載しますので、ご確認ください。また、応募に際しては以下の情報が必要となりますので、予めご準備ください。

（応募情報）

- a) 発表形式：ワークショップ、コロキアム、研究発表、実践報告の別
- b) 発表題目（日本語および英語）
- c) 発表者情報（共同発表者は氏名と所属のみ）：氏名（漢字とローマ字）、所属（日本語と英語）、E-mailアドレス
- d) 発表に使用する言語（日本語もしくは英語）
- e) 使用する機器（無い場合は「なし」を選択）

（発表要旨）

- a) 内容：「研究発表」の場合は、目的、仮説（リサーチクエスチョン）、研究方法、結果、考察を、「実践報告」の場合は、背景、具体的な内容、実践結果に対する考察を簡潔に明記ください。「ワークショップ」「コロキアム」は目的、対象、手法を詳しく明記してください。いずれの場合も引用文献リストは要旨に含めません。
- b) 分量：日本語の場合は350字～400字、英語の場合は200～250 wordsとし、要旨末尾に字数ないし語数を丸カッコ書きで明記することとします。
- c) その他：母語以外の言語で要旨を作成する場合

- は、あらかじめネイティブチェックを受けた上で提出してください。
6. 応募の期限は、2015年9月30日（水）午後11時59分です。
 7. 審査は、JACET関西支部研究企画委員会にて行います。
 8. 審査結果は、締切り後2週間程度でE-mailにて通知します。またフィードバックを必要に応じて行います。
 9. 審査結果の通知後の辞退は原則としてできません。

Call for Papers for the Kansai Chapter 2015 Fall Conference

JACET members are invited to present proposals for research papers, practical reports, poster sessions, workshops, and colloquia.

The conditions and procedures for proposals are as follows:

- 1) Proposed topics should be relevant to English education and related fields. The proposed material should not have been presented elsewhere.
- 2) Prospective presenters (both representative presenters and collaborators) must be JACET members at the time of submission.
- 3) The language for presentation should be either English or Japanese.
- 4) Presentation types and time allotments are as follows:

Workshops: Presenter(s) will guide participants in specific tasks. 90 minutes.

Colloquia: Each presenter gives a presentation followed by discussion among the presenters and with the floor. 90 minutes.

Research papers: Presenter(s) will describe theoretical or empirical research. 30 minutes (20 min for presentation; 10 min for Q & A).

Practical reports: Presenter(s) will describe classroom activities or ELT curriculum innovation. 30 minutes (20 min for presentation; 10 min for Q & A).

- 5) To submit your proposal, please go to the JACET Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org>) and click on “Paper Submission” to enter and select the following information.

A) Application form:

- a) Type of proposal (research paper, practical report, poster session, workshop, or colloquium)
- b) Title of proposal (English and Japanese)

c) Information about applicant(s): name, affiliation, e-mail address

d) Language for presentation (English or Japanese)

e) Equipment preference

B) Abstract:

a) Describe the purpose of the research, research question(s), research method(s), results and discussion. For a practical report, give the background of the report, details, conclusion, and other relevant information. Do not include applicants' references in the abstract.

b) Should be 200-250 words if in English or 350-400 characters if in Japanese. Write the number of words in parentheses at the end of the abstract.

c) If not a native speaker of the language used, have a native speaker check the abstract before submission.

6) Submission deadline: 11:59 pm, September 30, 2015.

7) The proposals will be peer reviewed by the Research Planning Committee.

8) Review results and feedback, as necessary, will be sent by e-mail two weeks after the deadline.

9) After the submission is accepted, withdrawal of the paper is not allowed, in principle.

■第3回（2015年度）JACET英語教育セミナー 開催のお知らせ■

※関西支部企画、本部主催で下記の催しがあります。関西支部秋季大会と同じく11月28日（土）に同じ会場（神戸学院大学ポートアイランドキャンパス）で連続して開催されますので、ぜひこちらにもご参加くださいませ。（参加料は無料です）

14:40～受付開始

15:00-16:00 業者プレゼン（新年度刊行教科書の紹介など）

16:10-17:30 特別シンポジウム「中高大グローバル教育最前線：SGH/SGU校の取り組み」

司会 石川慎一郎（神戸大）

事例報告1

岩見理華先生（神戸大附属中等教育学校教諭・グローバル教育推進室長）

「グローバル化に向けた神戸大附属中等教育学校の取り組み：英語教育と卒業研究の連携を中心に」

事例報告2

羽藤由美先生（京都工芸繊維大工芸科学研究科教授）

「グローバル化に向けた京都工芸繊維大の取り組

み：スピーキングテスト導入を中心に」

事例報告 3

中山 司先生（立命館大学生命科学部准教授・国際部副部長）

「グローバル化に向けた立命館大の取り組み：プロジェクト発信型英語プログラムを中心に」

全体ディスカッション

The 2015 Fall Conference of the JACET Kansai Chapter and the English Education Seminar will be jointly held on Saturday, November 28 at Port Island Campus of Kobe Gakuin University. The feature topics are “motivation” for the conference and “Global Education” for the seminar. Details will be announced in our website

(10:00-15:00 JACET Kansai Fall Conference)

14:40 Reception

15:00-16:00: Publishers' Book Fair and Presentation

16:10-17:30: Symposium

■紀要編集委員会より■

今年度刊行の第 18 号支部紀要は、招待論文、一般投稿論文に加え、支部大会や全国大会で発表された内容に基づく論文を募集します。今年度より、論文投稿締め切り期日は 9 月 30 日（水）となっております。JACET 関西支部会員の皆様におかれましては、研究・実践の成果を支部紀要で報告していただけるよう、投稿規定をご確認の上、第 18 号紀要にも奮ってご応募ください。

投稿期限：2015 年 9 月 30 日（水）午後 11 時 59 分

論文送付先：紀要編集委員会 事務局長

吉村征洋（摂南大学）

jacetkj [AT] gmail.com

提出方法：電子メールの添付ファイルのみ（原稿郵送は不要）

※ 受領後 3 日以内に確認の返信が届きます。万一 3 日経っても返信が届かない場合は、吉村まで再度ご連絡ください。

※ 提出方法の詳細は、JACET 関西支部ホームページをご覧ください。

（<http://www.jacet-kansai.org/file/toukoukitei.pdf>）

重要な日程：

2015 年 9 月 30 日（必着） 投稿原稿締め切り
12 月 15 日 審査結果通知

2015 年 1 月 10 日（必着） 修正原稿締め切り
3 月 31 日 刊行

JACET Kansai Journal Call for Papers

Kansai Chapter members are welcome to submit manuscripts for consideration for publication in JACET Kansai Journal (JKJ) No. 18.

Papers should be related to research on college English language education or relevant areas. The JACET Kansai Journal especially welcomes papers that have been presented at JACET chapter or national conferences within the past year. Please check the guidelines for details on submission procedures and requirements available at <http://www.jacet-kansai.org/file/toukoukitei.pdf>.

Submit manuscripts to:

Masahiro YOSHIMURA, Ph.D.

JACET Kansai Journal Secretariat

jacetkj [AT] gmail.com

If you do not receive a message confirming the receipt of your manuscript within 3 days, please request confirmation. Only e-mail submission will be accepted. Postal submission of paper-based manuscripts will NOT be accepted. Prepare your manuscript according to the JKJ instructions using Microsoft Word. Send it as an attached file with an email message to Dr. Masahiro YOSHIMURA, Secretariat, JACET Kansai Journal.

Important Dates:

- Deadline for manuscripts:

September 30, 2015 (via email as an attached file)

- Announcement of editorial decision:

December 15, 2015

- Deadline for receipt of revised manuscripts:

January 10, 2015 (via email as an attached file)

- Publication:

March 31, 2015

Refer to the guidelines and template at the JACET Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org>).

■事務局便り■

6月21日を開催されました本部理事会で支部長を任期終了となられた Judy Noguchi 先生、同じく理事を任期満了となられた木村博是 先生と梅咲敦子 先生から、以下のメッセージをいただきました。併せてご紹介いたします。これまで関西支部のためにご尽力いただきまして、誠にありがとうございました。この場をお借りして、お礼申し上げます。

退任のご挨拶

Messages from Kansai Chapter officers completing their term of office

◎旧支部長：Judy Noguchi 先生（神戸学院大学）

I wish to sincerely thank the Kansai Chapter officers and members who made it possible for me to serve as Chapter President from spring 2010 under the concept of “Trusting tradition, channeling change.” We were about to celebrate the 40th anniversary of the Kansai Chapter and the 50th anniversary of JACET itself. Thanks to the efforts of all of the officers from then until today, JACET Kansai has been steadily evolving as new people willing take up the challenges of leading this vibrant academic organization to support the great responsibility that we as English teachers have to help our students become global citizens by being able to use English as their professional tongue. “A chain is only as strong as its weakest link.” Today, I am happy to leave an even stronger Kansai Chapter community “chain” of trust and service in the capable hands of Yuko Oguri and the new officers.

◎旧理事：木村博是 先生（近畿大学名誉教授）

2012年から国際大会組織委員会の担当理事として、過去3回の国際大会と今年の第54回国際大会（鹿児島大学）の準備に関わらせていただきました。JACETに少しでも貢献できたことで、魔法で所期の目的を達成した後の Prospero の心境、“I'll break my staff, / Bury it certain fathoms in the earth” (*The Tempest*, V. i. 54-55) 「この魔法の杖を折り、地下いく尋のところに埋めよう」にも似た安堵の気持ちで、理事を退任させていただきます。国際大会の開催にあたっては、どの大会も支部の個性を十分に發揮していただきました。これはひとえに各支部役員の先生方の献身的なご尽力、会場校の関係者の方々のご協力によるものです。そして、とりわけ国際大会に参加していただいた JACET 会員のみなさまに衷心より感謝申し上げ、お礼の挨拶とさせていただきます。

◎旧理事：梅咲敦子 先生（関西学院大学）

3年間本部紀要担当理事という身に余る役目をいただき、感謝の気持ちで一杯です。お陰さまで、僅か

な前進かもしれません、オンライン投稿開始やフォーマットチェックリストの作成などに様々な先生方と取り組め、大変勉強になりました。本部紀要委員の先生方をはじめ多くの先生方と交流でき、私には充実した日々でした。お世話になり心より御礼申し上げます。精一杯させていただいたつもりですが、不行き届きはどうかご容赦くださいませ。これから一会员として頑張りますので今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

■会員情報の変更■

支部会員向けの各種案内の配達やメーリング・リストによる情報の配信に使用いたしますので、会員情報（住所、メールアドレス、所属、電話番号など）が変わられた方は、必ず **JACET 本部**へご連絡ください。紀要、講演会案内フライヤー、ニュースレターなどのお届けに支障が生じるおそれがございますので、今一度ご確認ください。

事務局からのご連絡のメールが、宛先不明等で数多く戻って参ります。JACET へお届けになっているメールアドレスをご確認ください。

----- · ----- · ----- · ----- · -----

なお、関西支部では名簿の作成・管理は行っておりません。ご異動等のご連絡は、本部事務局 (jacet@zb3.so-net.ne.jp) までお願いいたします。

Please immediately report any changes in your address, affiliation, e-mail address, telephone numbers or other personal information to **JACET headquarters** (jacet@zb3.so-net.ne.jp).